

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更 )

前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 11 月)	今回 (平成 31 年 2 月)	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	
観光	減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

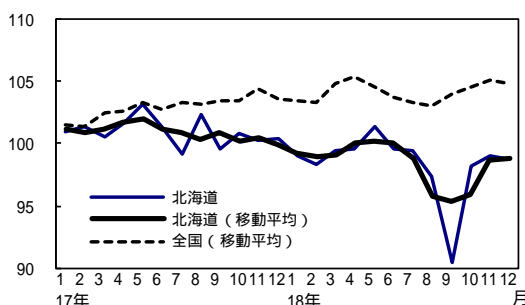
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

10 - 12 月期には、生乳生産は総量では 980,327t と前年比 0.9% 増となり、牛乳等向けが増加した。主な水産物<sup>1</sup>の生産額(主要 9 港)は、するめいか等が減少したため、前年比 16.3% 減となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直している。

10 - 12 月期には、食料品は、需要増加に伴い処理牛乳等が増加したものの、おおむね横ばいとなった。パルプ・紙は、地震の影響による減産からのばん回生産で新聞巻取紙等が増加した。電気機械は、地震の影響による減産からのばん回生産で集積回路等が増加した。鉄鋼は、普通鋼棒鋼等が増加した。化学・石油石炭製品は、地震による影響が長期化したためガソリン等が減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10 月	11 月	12 月
食料品	25.9	3.2	0.1	1.2	1.4	2.6
パルプ・紙	13.1	8.8	8.2	28.7	7.6	4.9
電気機械	9.1	13.7	8.6	29.8	1.7	7.8
鉄鋼	7.9	9.2	2.1	7.0	2.3	3.2
化学・石油石炭製品	7.6	7.1	4.0	4.3	39.4	2.3
鉱工業	100	4.5	3.0	8.6	0.8	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 2015 年 = 100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

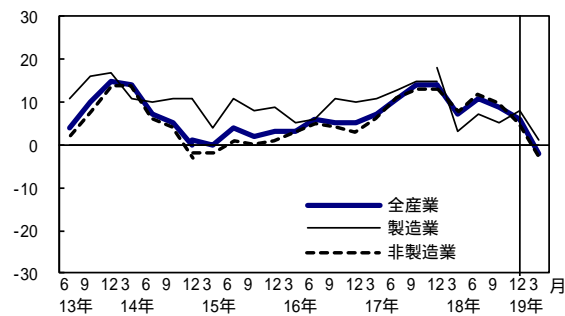
2. 全国及び北海道の太線は中心 3 か月移動平均。  
直近月は 2 か月平均。

<sup>1</sup>主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(3) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

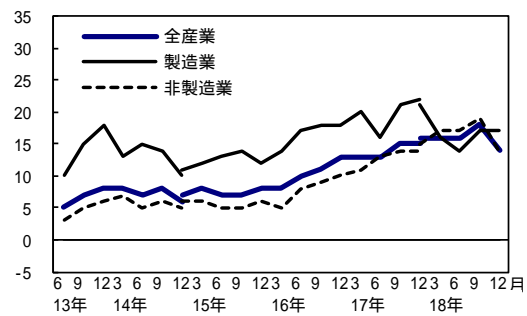
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



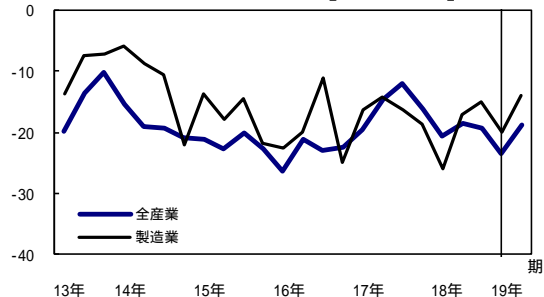
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。  
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



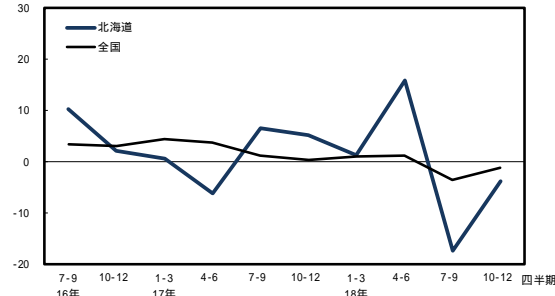
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2019年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「例年と比べて、降雪の影響が少ないことから、受注工事は計画どおり順調に進行している。完工高、利益共に積み上がりの良好な状況に変わりはない(建設業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前期比)の推移



(備考) 1. 季節調整値。

2 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

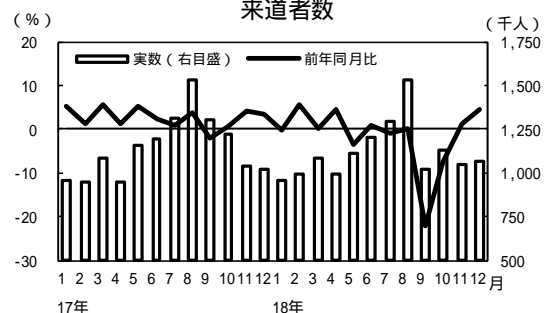
(前年度比、%)

	2017 年度実績	2018 年度計画
全産業	12.3	11.9 (3.0)
製造業	41.6	3.1 (0.9)
非製造業	0.5	17.0 (5.1)

(備考) 1.( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2. リース会計対応ベース。

来道者数



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

(5) 観光は、おおむね横ばいとなっている。

来道者数は、航空機、鉄道の利用者減などもあり、おおむね横ばいとなっている。

(1) 北海道

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.7%増、11月は同1.3%増、12月は同0.6%減となった。

百貨店・スーパー販売額

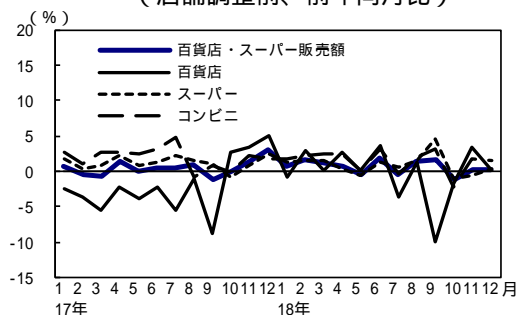
百貨店は、10月は、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回った。11月は、飲食料品は前年を下回ったものの、衣料品、身の回り品、その他は前年を上回った。12月は、衣料品、身の回り品、その他は前年を上回ったものの、飲食料品は前年を下回った。

スーパーは、10・12月期は、衣料品、身の回り品等が低調だったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「新年を迎えても節約志向が依然としてみられ、必需品以外は若干の低価格でも購入を控えている客が目立つ (スーパー)」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)

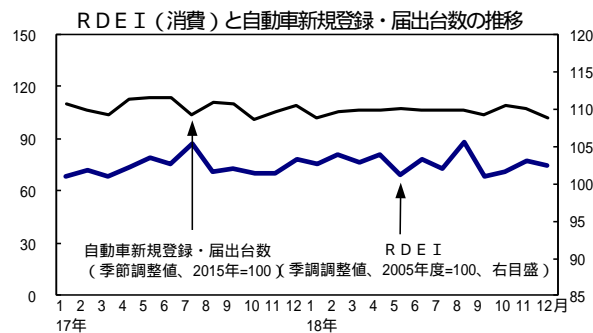


	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.5	0.7	1.3	0.6
百貨店・スーパー(*2)	0.1	1.2	0.3	0.3
百貨店(*2)	0.5	1.7	3.4	0.0
スーパー(*2)	0.3	1.0	0.6	0.4
コンビニ(*2)	0.3	2.3	1.8	1.4
乗用車(*3)	1.6	9.5	0.9	6.0
(季節調整値)(*3)	0.6	4.8	1.3	4.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

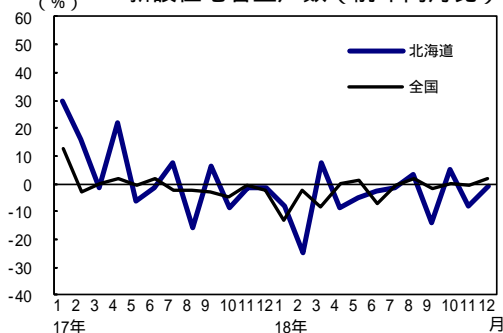


(2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。

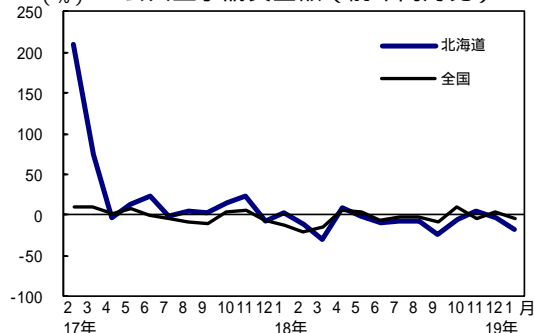
持家が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を下回っている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)

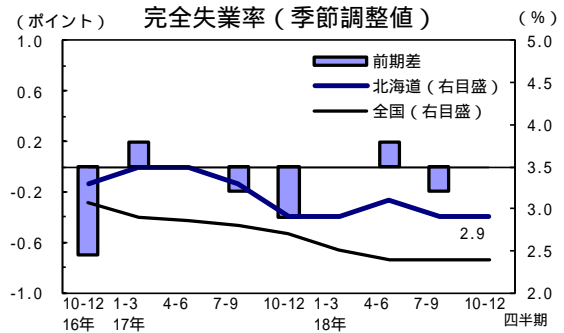
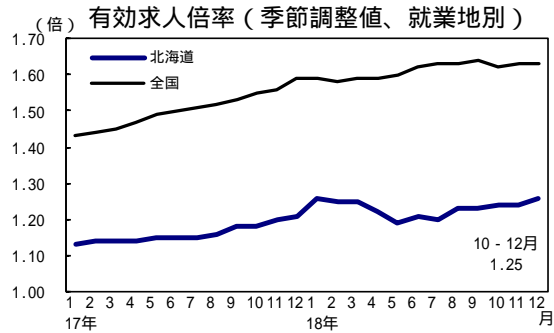


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

「道内各企業の採用担当者の動きから、1月は大きな変化がみられない (学校 [大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2018年 1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	2019年1月
倒産件数 (前年比)	65 17.7	62 16.2	53 10.2	51 21.5	16 15.8
負債総額 (前年比)	120 21.0	60 28.4	54 60.7	59 84.7	12 74.8

